

白山ふるさと文学賞

第四回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生低学年の部 最優秀賞

おかあさんへのかんしや

松陽小学校二年

南 みなみ

恵莉佳 えりか

わたしのおかあさんは、しごとやいえのこと、わたしやおねえちゃん、おにいちゃんたちのおせわでまい日いそがしいです。

おかあさんの一日は、あさ早くおきておべんとうをつくって、おねえちゃんをえきまでおくって行きます。そのあと、いえのことをして七時間前には、いえを出てしごとに行くので、わたしに、

「とじまりおねがいね。いつもごめんね。ありがとう。」

と言って、あわてて出かけて行きます。わたしは、おかあさんの「ありがとう」のことばがとってもうれしいです。しごとがおわってかえってきたら、よるごはんのよういをしたり、せんたくものをたたんだりして、とてもいそがしいです。

まい日いそがしいおかあさんだけど、学校の話を聞いてくれたり、しゅくだいを見てください。おかあさんはおねえちゃんのなやみごとを聞いて、いろいろアドバイスをしているときもあつたり、おにいちゃんにべんきょうを教えてあげたりもしています。わたしたちは、おかあさんにいつもたすけてもらっているんだなと思いました。

わたしがかせをひいてねつを出したときや、けがをして入いんしたときも、ずっとそばにいてかんびようをしてくれてありがとう。

しごとからつかれてかえってきたときでも、いつも「おいしいごはん」をつくってくれてありがとう。

たかさんのせんたくものを、きれいにしてくれてありがとう。

そんなおかあさんがいるから、わたしやみんなが元気でいられるんだよ。おこつたらこわいときもあるけど、わたしは、おかあさんが大好きです。

これから、おかあさんがたいへんなときは、いっぱい、いっぱいお手つだいするからね。

「おかあさん、これからも体に気をつけてがんばってね。」

「おかあさん、いつもありがとう。」

